■頼春水　　**儒学者。頼山陽の父。頼春風・頼杏坪の兄。広島藩儒として，朱子学を藩学とし，寛政異学の禁に影響。**
らいしゅんすい
菅原伝授＋・1746＝　　瀬戸内の安芸国竹原で，染物屋｛頼兼屋｝を営み，中国風に"頼"姓を名乗る紺屋又十郎の長男に生まれる。

先代から'男子には学問させよ'と遺命され，自ら学問を身に付けた父と，造り酒屋の娘ながら女流歌人として右にでる者はいないといわれた母による薫陶を受けて育ち，

徳川吉宗没・1751＝ 5歳：

薩摩藩工事・1753＝ 7歳：次弟春風が誕生。

自然真営道・1755**＝ 9歳：**
・・・・・・1756＝10歳：三弟杏坪が誕生。
_中継貿易と塩田開発で豊かになって華開いた竹原独特の町人文化のなか，息子を学者にすることを夢見る和歌を嗜む父の影響のもとに育ち，初め塩谷鳳洲について学び，
大弐政治批判1759＝13歳：**_三原の順勝寺で折衷学者平賀晋民が開く塾に入り，**
大岡忠光没・1760＝14歳：
・・・・・・1761＝15歳：この年まで学ぶ。

加賀千代句集1764**＝18歳：*病気治療という名目で大坂へ上り，僅か4ヶ月の間に，目標とした114名の学者・文人のうち，74名との面会を実現して帰藩，生涯を決定づけるものとなる。**
忠臣蔵大当り1766＝20歳：**_"身上?"を名目に，本格的に大坂に遊学，片山北海を盟主とする詩の結社｛混沌社｝に入り，**

_多彩なメンバーと自由な雰囲気のなか，切磋琢磨する一方，帰郷すら禁ずる父の叱咤激励を受けて，あまり好まない儒学も学び，一世を風靡していた徂徠学を脱し，朱子学者の中心的存在にまでなるほど，刻苦勉励を重ね，北海・葛蠡庵・岡公翼らと交わり才名を知られた。

田沼意次老中1772＝26歳：
大原騒動・・1773**＝27歳：*大坂江戸堀に｛青山社｝を開塾，春水と号して自立。**

_尾藤二洲・古賀精里・中井竹山・西山拙斎・菅茶山らと往来して，学業を深めていった。洛閩の書を読んで旧学を捨て，ひたすら同志たちと朱子学を追求した。やがて，広島藩主に認められるようになるも，父から竹原に戻ることを反対され，大坂での学者稼業を決意，

源内獄中死・1779＝33歳：中井竹山の媒酌で，儒医の娘と結婚，
・・・・・・1780＝34歳：長男山陽が誕生した年，水戸藩の「大日本史」を書写して広島藩に献上，
・・・・・・1781＝35歳：染物屋という低い身分ながら，***ついに広島藩儒に抜擢され，初め30人扶持だったのが，世子輔導の任を負い，また江戸在勤の藩士子弟の教育にあたり，世子が封を襲ぐに及んで禄高3百石にもなった。**
天明大飢饉始1782**＝36歳：_広島藩学問所が開設され，その学制について激論もあったが，香川南浜が東堂で古学を講じ，春水が西堂で朱子学を講じた。広島住まいとなったが，**
蘭学階梯・・1783＝37歳：**_すぐに世子の伴読として江戸藩邸勤務となり，残された妻は広島の生活に耐えられず，子の山陽とともに実家に帰る。この間，世子や在府子弟の教育に努めるとともに，尾藤二洲らの推挙で昌平黌でも講義，しかし春水はこれで満足せず，程朱の学で藩学を統制しようと建議した。**
蝦夷初調査・1785＝39歳：**_自らの教育理念が採用され，幕府の〈寛政異学の禁〉に先んじること5年にして，藩学が朱子学に統一される。帰藩とともに，妻子も再び広島住まいとなり，以後，江戸勤務を繰り返すも，単身赴任となる。或る人その狭陋を譏ると，「学統弁」を著わしてこれを駁し，異学を斥け，朱子学を古聖賢の学とするとともに，松平定信に献上，**
田沼意次失脚1786＝40歳：
寛政改革始・1787＝41歳：老中松平定信によって〈寛政の改革〉が始められ，
異学の禁・・1790＝44歳：〈寛政異学の禁〉となる。
混浴禁止・・1791**＝45歳：**
松平定信引退1793＝47歳：
_弟杏坪を親代わりにつけていた早熟の息子山陽が躁鬱病的神経症だったため，
昌平黌始・・1797＝51歳：江戸に遊学させて尾藤二洲に師事させ，
古事記伝・・1798＝52歳：帰藩後，
蝦夷地直轄始1799＝53歳：**_西学が火災のため焼けると藩は再建せず，結局藩学統一が成立し，春水は弟頼杏坪と共に朱子学を講じた。山陽を結婚させるも，安定せず，**
伊能測量始・1800**＝54歳：**昌平坂学問所で講義。**_山陽がついに脱藩して捕らえられ，やむを得ず一室に幽閉，嫁を離別させた後，誕生した孫を養子とし，**
膝栗毛始・・1802＝56歳：再び，昌平坂学問所で講義するなど，
ｱﾒﾘｶ船来航始1803＝57歳：**_この年までに，8回江戸・広島を往復。**
青洲麻酔手術1805＝59歳：山陽を廃嫡とすることで，謹慎免除を許されたが，その後，山陽の放蕩生活が激しくなり，

間宮海峡発見1809**＝63歳：**永年の交友菅茶山に相談して，彼の｛廉塾｝に引き取って貰ったものの，

ｺﾞﾛﾌﾞﾆﾝ拿捕 1811＝65歳：山陽は京都へ逃げてしまう事態となる。

浮世床・・・1813＝67歳：御歩行頭となる。
_藩侯の東観には必ず往還を共にし，息子の将来を案じたまま，

伊能測量終・1816＝70歳：**_没した。**
「霞関掌録」「在津紀事」「師友志」「春水掌録」「春水日記」。

「人づくり風土記(広島)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，